

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2990700029		
法人名	社会福祉法人 正和会		
事業所名	グループホーム シャルルまきの		
所在地	奈良県五條市大沢町5番地25		
自己評価作成日	平成22年3月19日	評価結果市町村受理日	平成22年5月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設から3年、一歩外に出れば四季を感じることが出来る環境の中、花や野菜を育て食卓に彩りを添えている。日々、入居者の自主性を重んじ、日課は特に設けず個人の生活習慣を尊重し、ご自分のペースで生活して頂いている。また、心身の残存能力を維持し楽しく喜びのある生活をしていただくために希望も聞きながら散歩等行っている。介護福祉施設併設である強みを活かし重度になられても生活が継続できるよう、看護師、理学療法士、管理栄養士等の専門職とも連携を持っている。スタッフには入社後より計画的な研修やOJT、offJTによる知識や技術の習得を行うことにより、スキルアップを図り最適なサービスが提供できるよう努めている。緊急時や災害時の応援体制も整備し入居者、スタッフ共に安心して過ごすことが出来ている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、市の北西部の高台に介護老人福祉施設を核に各種の介護サービス施設が整備された中に新設開所されています。ホーム内は清掃も行き届き清潔感が溢れています。また、採光や室温への配慮・季節感の創造等に工夫され潤いが感じられます。加えて、それぞれの居室には、洗面所・トイレが整備されています。このような環境の下で、入居者は能力を活かしながら、本人のリズム・ペースで穏やかに生活されています。職員も入居者本位を基本に、運営理念を良く理解し、支援の中で実践されています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成22年4月9日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目の付く場所に理念を掲げている。理念に沿って日々のケアが行えるようミーティングや会議で話し合いの場を持つなど常に意識するように努めている。	入居者は、それぞれの役割をもって家庭的な環境と地域住民との交流の下で自分らしく暮らし続ける事を方針とした理念があり、ホーム内の見やすい場所に理念の掲示がなされ、実践に活かすよう努められています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入している。正月は地元の神社へ初詣に出かけたり、文化祭への参加、子供だんじりの訪問や地域と合同の夏祭りなど交流の機会が多くなった。	自治会への加入とともに、地域行事やリサイクル活動への参加等による地域住民との交流に広がりがみられます。また、近くの陵墓の清掃も検討されており、地域の一員としての意識が高まっています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の介護者教室への協力や地元文化祭で健康相談室を開催。看護師による血圧測定や日ごとの健康管理のアドバイスをし多くの参加をいただいた。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告及び経過報告を行い、それに対しての質問やアドバイス等意見交換を行っている。また、地域の情報交換も積極的に行われており事業所運営に役立っている。	幅広いメンバーで構成された運営推進会議が設置され、定期的開催されています。会議では、活動状況等の報告のほか、運営上の諸課題や質の向上に向けた意見交換等が積極的になされ、設置の意義・目的が機能しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を利用し状況の報告を行っている。必要時は電話や出向いて行って相談アドバイスをもらっている。	地域密着型サービスと位置づけられて以来、行政との連携は不可欠との思いがあり、運営上の諸課題解決やケアのあり方等についての相談が随時行われています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名の身体拘束あり。外す方向で努力したが良い結果に至らず継続中である。身体拘束に関する弊害については研修や常日ごろ支援の中で伝え、理解、実践できるよう取り組んでいる。	身体拘束による弊害を深く認識されており、やむを得ず必要な場合には、期間・時間を明記した書面により家族の承諾を得る事とされています。	家族の承諾の下に、現在1名の入居者にペット柵の取り付けがなされています。解除に向けての早急な取り組みを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修を行い、高齢者虐待防止法に関する理解の浸透や遵守にむけた取り組みを行っている。また、日常の中で見過ごされることがないように(言葉を含む)職員間で常に情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人研修を行い、学ぶ機会を設け必要時対応できる体制を整えている。玄関にパンフレットを置き入居者、家族等にも周知を図っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって、事業所のケアの方針や取り組み、料金、退去を含めた事業所の対応可能な範囲を説明。状況の変化により解約に至る場合は家族に説明、納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「意見箱」を設置。また、アンケートを行ったり面会時に希望、要望などを聞けるようにしている。アンケート結果は分析し「家族会」で報告する機会を設け、改善や満足度をアップするための取り組みを行っている。	家族の訪問時やアンケートの実施により、不安に感じている事や意見・要望等を聞きだす取り組みがなされ、寄せられた意見等を定例会議で検証し、運営に反映されています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度定例フロア会議を実施し、意見交換が出来る機会を設けている。また、毎日出勤時気づきを出し合いノートへ記入、意見を反映するようにしている。	毎月のフロア会議で運営に関する事項等について意見交換や提案する機会が確保されており、必要な事項は運営に反映させる取り組みがなされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し個々の努力や実績を評価し向上心をもって働けるようにしている。また、ストレスを溜めずに働けるよう悩みや希望を聞き個々への対応を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	年間を通じ法人研修を計画、実施している。外部の研修に参加する機会も設けている。新人職員は約1ヶ月、先輩職員がつき介護技術や精神面、関わり方について指導を行い不安なく仕事ができるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで情報交換会を相互訪問で実施。本年度は介護福祉施設も含めた施設間の交流の場も持たれた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	これまでの生活歴や思い、要望等の情報収集を行っている。なるべく入居前に訪問してもらい雰囲気を知って頂くようにしている。また、入居後もその都度相談しながら進めて行くことを伝え安心して頂けるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に本人と家族の今までの関係や現在困っていること、要望等話し合う機会をもっている。入居後もその都度相談しながら進めていくことを伝え安心して頂けるよに努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居を最終目標にするのではなく、本人と家族が必要としているサービスの紹介やアドバイスを行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側という一方的なものでなく共に支えあえる関係作りに努めている。人生の先輩として教えていただくことが多く、特にスタッフは日ごろの笑顔や何気ない言葉で元気をもらい明日の活力になっている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りや電話、また面会時など日々の様子や体調の変化、それに対するスタッフの思いを伝え、情報を共有することで本人を家族と同じような思いで支えていることを伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院への送迎支援を行ったりしている。	安定した生活を確保する上で、馴染み関係の維持・継続も大きな要因との考えがあり、いきつけの美容院や買い物等による関係が途切れないような支援が図られています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握、座席の配慮をすることで支えあう環境を作っている。また、職員間で情報を共有し一緒に過ごすことで、感情の変化を早めにつかみ対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了する前に退所後も必要時は相談に乗って行くことを伝えている。すでに退所された方の施設を訪問したりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々本人の思いをなるべく引き出せるような声掛けをしている。また、会話(つぶやき)の中や表情から汲み取ったり、遠慮がちな方には家族から尋ねてもらおうなどしてなるべく本人の思いに添えるようにしている。	日々の暮らしの中での言動等の観察や家族からの聞き取り等により、一人ひとりの意向の把握に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を集めたり入居前の事業所へ確認することもある。一度に情報収集するのは困難なこともあるため、本人の日々の会話や家族、兄弟の面会時の情報を追加記録している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々起こる出来事、体調の変化に応じた対応を行い記録するとともに朝、夕報告する場を設けている。個人ファイルには状態が変わった時に記録し、スタッフ全員が把握できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに担当者会議を開催。日々の記録を基にスタッフが集まって意見交換を行っている。また、家族の希望や、日ごろの関わりの中から本人の思いを聞き反映できるようにしている。	介護計画の作成と見直しの必要性を認識され、3ヶ月に1度は全ての入居者について関係者で検討し、現状に即した計画を作成されています。また、状態等に変化が見られる時には、随時に相談・検討がなされています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の支援に関わる記録(介護計画を含む)は、パソコンで管理していて、スタッフは出勤時各自確認するようにしている。個別記録を基に日々の支援や介護計画の評価、見直しに役立てている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況により受診や買い物等柔軟に対応し満足して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容室の訪問サービスを利用してもらっている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に沿うよう努めている。受診付き添いは基本家族であるが、都合で行けない場合や車椅子の方は受診の代行や送迎を行っている。また、症状によっては他の医療機関受診の相談をすることもある。	入居時に、かかりつけ医について相談され、本人の希望を優先した対応がなされています。なお、受診に際しては、ホームでの暮らしの様子等の情報提供がされ適切な医療確保に努められています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護保健施設の看護師に、日常の健康管理や医療面での相談、アドバイスをもらっている。主治医との連絡を密に図ることにより早期対応が行えるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族とともに説明を受け、治療方針等を聞くようにしている。入院中は面会や家族、病院と情報交換を行うことにより早期退院に繋げるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、趣旨説明を行い同意をもらうと共に、その都度状態を報告し本人・家族の思いを確認しながら進めている。全体が重度化してきている中、できるだけ継続して生活していただけるよう体制を整え、協力医にも説明理解を得ている。	家族の終末期への関心が高い事を理解され、対応指針の作成と契約時に説明がなされています。また、状況に変化が見られる時には、その都度関係者が相談し適切に対応され、職員への周知・徹底も図られています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時は消防署により蘇生法や応急手当の指導を受けている。法人研修をはじめ日々起こりうるリスクに対して繰り返し指導をしている。また、緊急時対応マニュアルを設置、速やかに対応できるようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難誘導訓練を法人内の施設間で協力をしながら年間を通じ実施している。地域の協力体制については運営推進会議でお願いしている。また、食料品をはじめ生活必需品を確保し災害時に備えている。	定期的に消火・避難訓練が実施されるとともに、ホーム内の連絡体制や緊急通報装置・スプリンクラーの設置等が整備されています。また、地域住民への応援・協力の要請がなされています。	地域住民への理解・協力を広がりが見られつつありますが、一層の体制整備を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として敬意を払うことを忘れず、言葉遣いには常に意識するようにしている。支援を行う時も行動から察知したり、本人の側で声を掛けるなどの配慮を心がけている。	一人ひとりの尊厳を大切に、暮らしの中で常に言動等に留意した支援に努められています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自分で決める場面を意識して作ったり、一人ひとりに合った声掛けや方法により思いが表出できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの体調やペースで過ごして頂いている。希望があればできるだけ叶えられるよう調整し個別対応に努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、整髪はできるだけ鏡を見ながら実施していただいている。希望者には毛染めをしたり、行きつけの美容院へ送迎をしている。また、行事等にはお化粧をしてもらい、おしゃれを楽しんでもらう機会を作っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けやあと片付け、おやつ作りなどを一人ひとりの力に合わせ一緒に行っている。楽しい雰囲気の中で食事を食べていただけるようスタッフと入居者が一緒に食事を摂っている。	食事の盛り付けや、配・下膳等入居者の能力に応じて協働され、また、職員も一緒に食事を摂り楽しい雰囲気作りに取り組まれています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事、水分量を把握し摂取量が減った方には原因を調べ、形態の変更や嗜好に合わせた物を提供するなどして、栄養・水分の確保に努めている。必要時は主治医と相談している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	スタッフは口腔ケアの重要性を認識し自分で出来る方には声掛け・見守りを行い、出来ない方には介助を行い常に清潔に保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一方的に介助するのではなく、本人の希望や動きを察知しプライドを傷つけることなく支援できるようにしている。一人ひとりにあった時間、方法、物品を常に検討することにより気持ち良く生活できるように心がけている。	排泄パターンの掌握・記録と行動観察の下に、トイレ誘導がなされ自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を十分認識し個々に応じた水分や食べ物、運動の確保に努めている。排泄パターンを把握し個々にあった対応を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を聞きながら入浴してもらっている。希望者には夜間浴も提供(週2回)。家庭浴槽での入浴が困難な方には特養の浴槽でゆったり入っていただいている。	入浴日や入浴時間帯の設定は無く、本人の希望に応じた支援が図られています。また、夜間入浴についても弾力的に対応されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間が確保できるよう日中活動を行ったり、午睡が必要な方には時間を調整したり、寝つきの悪い方には暫く側に付き添うなどして眠りにつけるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や副作用を記載した書類を個々のファイルに綴じている。日ごろの状態把握と共に、特に薬が変更になった時は様子観察を行い変化があった時は看護師・主治医に報告、指示を仰いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴の中から仕事、生活習慣、趣味など本人の得意な事や役割、楽しみと感していることを見つけ援助している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型インフルエンザ予防のため毎日の散歩は除き買い物やドライブは頻度が少なかった。また毎年楽しみにされている公園の見学は中止となった。最近は落ち着いてきているため、希望を聞きながら再開して行く予定である。	外気に触れる事の効果を理解され、周辺散歩の日常化や買い物・ドライブ等外出機会の確保に努められています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じた支援を行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年年賀状を出すための支援を行っている。家族からの電話の取次ぎや希望に応じて電話を掛けたり手紙の投函をしたりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに植物や絵画を飾り、ユニット間は吹き抜けになっており外の光を取り入れることにより、落ち着いた空間となっている。季節の花や飾りで季節を感じてもらえるようにしている。	明るく広い共用空間は、清掃も行き届き清潔感があります。また、採光や室温調節の工夫や季節感を創造した装飾もなされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子、ソファを置き思い思いの場所でゆっくり過ごせるようなスペースを設けている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや寝具、若い時の写真、仏壇など馴染みの物を持ち込まれたりしている。また、新しい行事のスナップ写真を貼るなど本人、家族と相談しながら居心地のよい部屋作りを行っている。	使い慣れた家具や好みの品々が持ち込まれ、安心して暮らせる居室となっています。なお、居室には洗面所・トイレが完備されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	下肢筋力低下により転倒の可能性が高い人にも歩行出来るように家具の配置を考えたり、ベッドから転落の可能性のある人は畳へ変更したりして安全且つ残存機能を維持できる環境作りを行っている。		